

河合町の文化財 ちよつと見て！展

第10回 平城遷都の頃の河合町を探る

平成22年(2010)は、都が藤原京から平城京に遷って1300年にあたります。この平城遷都1300年を記念して奈良県内各地で様々な催しが行われます。今回の展示では「平城遷都1300年祭」にちなんで1300年前の河合町を探ってみたいと思います。

河合町には旧石器時代以降の多くの遺跡が残っています。このうち古墳は佐味田宝塚古墳、ナガレ山古墳、乙女山古墳、大塚山古墳など全国的にもよく知られたものがありますが、奈良時代の遺跡はよくわかっていませんでした。この四半世紀の間に町内の遺跡の発掘調査が進み、奈良時代の様子が徐々に明らかになってきました。

これまでの発掘調査により奈良時代の動向が窺える遺跡としては、薬井瀧ノ北遺跡、長林寺、宮堂遺跡、舟戸・西岡遺跡、長楽遺跡があげられます。また、廣瀬神社も奈良時代に先立つ天武天皇4年(675)以降、『日本書紀』にはほぼ毎年4月と7月に記録が見え、『延喜式』にも規定が見られます。奈良時代は『続日本紀』に奈良時代後期の宝亀9年に記事が見える以外は記載が見られませんが、後の史料などからも奈良時代にも天武・持統朝に引き続き祭祀が行われていたと考えられます。

次に各遺跡について説明します。

薬井瀧ノ北遺跡(薬井瓦窯跡)

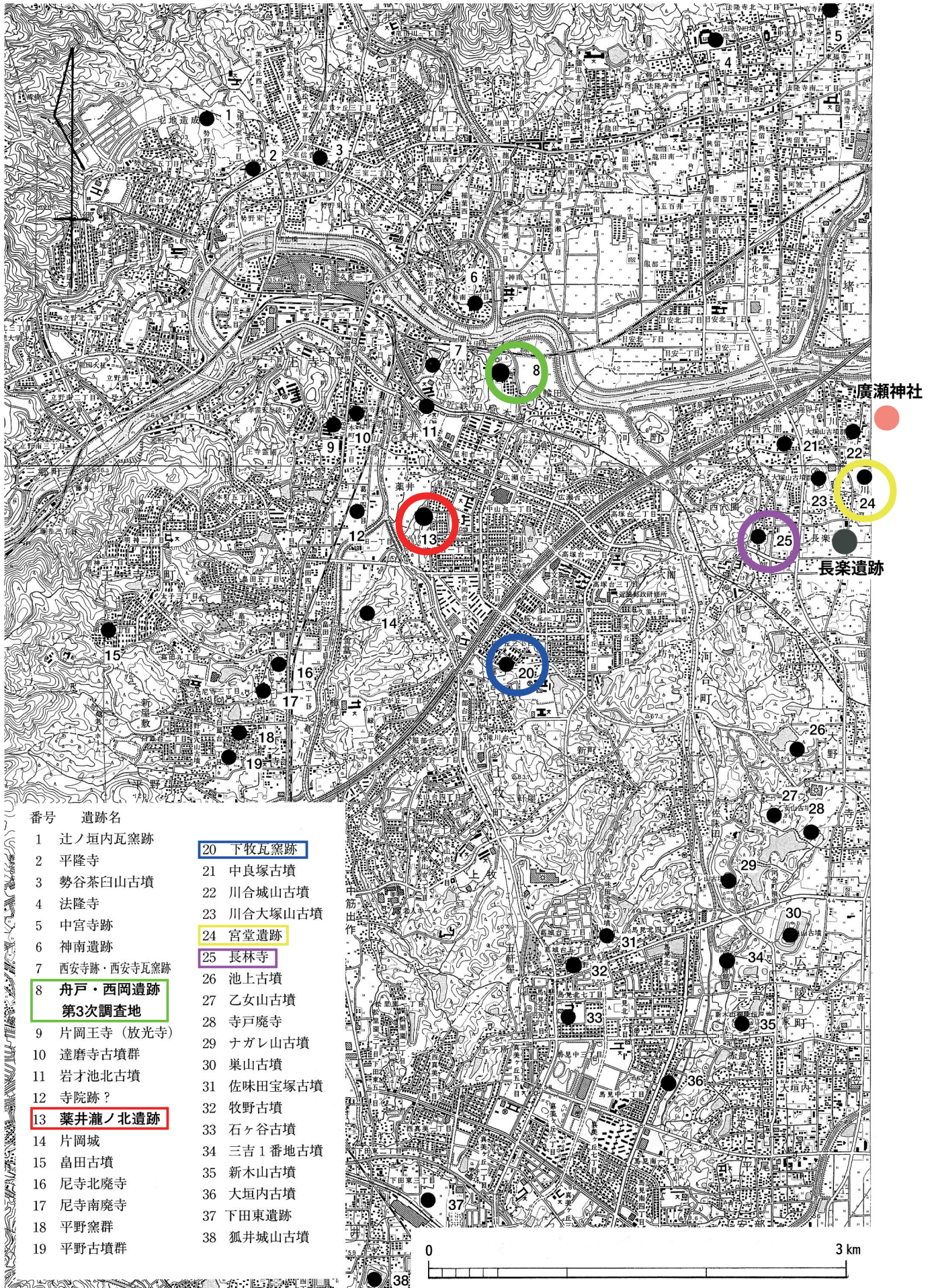
薬井瀧ノ北遺跡は、河合町の西端、大字薬井に広がる奈良県遺跡地図10-B-68の遺物散布地で、平成16年2月23日から3月31日まで発掘調査を実施し、新たに小字名を加えて薬井瀧ノ北遺跡としました。



航空写真(北上空から)



灰原半掘状況



- | 番号 | 遺跡名 |
|----|-------------------|
| 1 | 辻ノ垣内瓦窯跡 |
| 2 | 平隆寺 |
| 3 | 勢谷茶白山古墳 |
| 4 | 法隆寺 |
| 5 | 中宮寺跡 |
| 6 | 神南遺跡 |
| 7 | 西安寺跡・西安寺瓦窯跡 |
| 8 | 舟戸・西岡遺跡
第3次調査地 |
| 9 | 片岡王寺(放光寺) |
| 10 | 達磨寺古墳群 |
| 11 | 岩才池北古墳 |
| 12 | 寺院跡? |
| 13 | 葉井瀧ノ北遺跡 |
| 14 | 片岡城 |
| 15 | 畠田古墳 |
| 16 | 尼寺北麿寺 |
| 17 | 尼寺南麿寺 |
| 18 | 平野窯群 |
| 19 | 平野古墳群 |
| 20 | 下牧瓦窯跡 |
| 21 | 中良塚古墳 |
| 22 | 川合城山古墳 |
| 23 | 川合大塚山古墳 |
| 24 | 宮堂遺跡 |
| 25 | 長林寺 |
| 26 | 池上古墳 |
| 27 | 乙女山古墳 |
| 28 | 寺戸麿寺 |
| 29 | ナガレ山古墳 |
| 30 | 巢山古墳 |
| 31 | 佐味田宝塚古墳 |
| 32 | 牧野古墳 |
| 33 | 石ヶ谷古墳 |
| 34 | 三吉1番地古墳 |
| 35 | 新木山古墳 |
| 36 | 大垣内古墳 |
| 37 | 下田東遺跡 |
| 38 | 狐井城山古墳 |

葉井瀧ノ北遺跡と周辺の遺跡分布図

調査地では飛鳥時代から奈良時代にかけての古瓦が出土するという話を聞き及び、瓦窯もしくは建物の存在を想定しました。このため、現況の地形によって畑の南側に調査区を設定し、人力により掘削を行ったところ、瓦窯の灰原(はいばら)を検出しました。炭や灰が堆積した黒色土は、東西約4メートル、南北約1.5メートル、深さ約60センチメートルの掘り込みを充填し、溢れるように拡がっています。この掘り込みの東側の地山が高くなっており、南北幅約2メートルの範囲に焼土が見られ、焚口(たきぐち)と考えられます。その先は調査区外になり不明です。

調査は灰原の南側半分を掘り下げて終了しました。このため、窯本体の残存状況は不明です。ただし、灰原を埋めて堆積している土には中世の羽釜の破片が見られ、中世以降に谷を埋めて耕作地とした時に窯本体はいくらか削平されているようです。

調査で検出された灰原から偏行唐草文軒平瓦(へんこうからくさもんのきひらかわら)・複弁蓮華文(ふくべんれんげもん)軒丸瓦を含む多量の瓦片が出土しました。軒平瓦は型式番号6644 C及び6644 A、軒丸瓦は6272 A及び6272 Bで、長屋王邸跡で出土した瓦と同型式です。軒瓦以外には熨斗瓦(のしがわら)・面戸(めんど)瓦が多くみられます。

出土品はいずれも灰原に廃棄された不良品であり、長屋王邸出土の製品と範傷が完全に一致する個体はありませんが、長屋王邸の瓦とされる軒丸瓦6272一軒平瓦6644のそれぞれ2種が一括で出土している点、また、丸瓦・熨斗瓦等の製作技法全体に共通する要素が多く、薬井瀧ノ北遺跡(薬井瓦窯)で作られた瓦が長屋王邸で使用されたと考えてよいと思われます。さらに、薬井瀧ノ北遺跡の南方にある下牧瓦窯(上牧町)では軒平瓦6644 Bが出土しており、この窯も含めると長屋王邸所用の瓦がすべて揃います。

この地域は長屋王邸跡出土木簡にある「片岡」の地域に含まれ、長屋王家の御園(みその)があった場所で、ハス・カブラ・ジュンサイ・アザミ・フキ・モモ(?)等の蔬菜・果物を進上していたことがわかっています。これらの作物は都夫良女・宿奈女・木部足人・檜前連寸嶋・木部百嶋・□万呂・大万呂らが運びました。品名に瓦が記載された木簡は出ていませんが、これらの重量物は川を利用して舟によって運搬していたと考えられます。薬井瓦窯跡からは葛下川を下り、王寺から大和川を遡上し、さらに廣瀬神社の東側で佐保川に入れば、平城京へとつながります。佐保川の支流は長屋王邸のすぐ近くを流れています。おそらく曳き舟で川を上って行ったものと思われるが、当時どこまで遡上が可能であったかはわかりません。蔬菜・果物の他に、瓦もこの地で製作していることが判明したことで、当該地域は長屋王と非常に関わりの深い地域であることが再確認されました。

調査地で検出した瓦窯は谷の最深奥部に営まれています。その谷の数箇所古瓦の破片が散布しており、複数の窯跡が遺存しているようです。また、谷の北側の尾根上には広い平坦部があり、工房跡が残っている可能性も考えられます。この平坦面の小字名は「宮後(みやのしろ)」といいますが、もとは「宮代」で長屋王家の「北宮」と関わる地名と考えられないでしょうか。

また、片岡御園から進上された作物は薬として認識されていたものもあり、御園は菜園であるばかりでなく、薬草園という位置づけも考えられないでしょうか。そうであれば、薬井という地名とも関わるのかも知れません。

この調査で古代の瓦窯が検出されたことは、これまで全く遺跡の内容が不明であった薬井地域の埋蔵文化財の一端を知る上で、非常に大きな成果となりました。

複弁蓮華文軒丸瓦

6272A



6272B



偏行唐草文軒平瓦

6644A



6644C



薬井瀧ノ北遺跡出土軒瓦写真



熨斗瓦

熨斗瓦は棟の上に重ねて並べる瓦です。平瓦を半分にして用いられることも多かったようです。薬井瀧ノ北遺跡では用途に応じた瓦を製作していたようです。



面戸瓦（内面）

面戸瓦は棟の部分にできる丸瓦と平瓦の隙間を覆う瓦です。平瓦を適当な形に割って用いられることも多かったようです。



丸瓦



炭

薬井瀧ノ北遺跡出土瓦等写真

長林寺

長林寺は聖徳太子建立の伝説がある寺院ですが、発掘調査の成果からは7世紀前半には小規模な建物しかなく、七堂伽藍が整った大寺院となるのは7世紀後半になってからのことだと考えられます。平成18・19年（2005・2006）に長林寺の南西にある尾根斜面で、2基の古墳が発掘調査により確認されました。池部三ツ池1号墳は6世紀後半、同2号墳は7世紀初頭の築造と考えられ、長林寺の造営にかかわった人物の祖先の墓と考えられます。

長林寺がある廣瀬郡は、敏達天皇から天武天皇、天武天皇の第1皇子の高市皇子、その子の長屋

王の経済的な基盤となった地域であり、敏達天皇系の王家との深い関わりが窺えます。天武天皇4年（675）に天武天皇が廣瀬と龍田の神を祭らせ、その後制度化されますが、上記のような関わりの中で、この時期に天武天皇を支えた豪族により長林寺の伽藍が整備されたと考えてもよいのではないのでしょうか。

奈良時代には金堂の建て替えが行われたようです。他の伽藍も存在していたようです。この時期の瓦にはごく少数ですが、薬井瀧ノ北遺跡（薬井瓦窯跡）で出土したような偏行唐草文軒平瓦6644の系統に連なる文様構成の軒平瓦が出土しています。この時期、長林寺で用いられた瓦の一部は薬井瀧ノ北遺跡（薬井瓦窯跡）の未発見の窯で製作された瓦と考えることもできるでしょう。



長林寺出土偏行唐草文軒平瓦

宮堂遺跡

宮堂遺跡は廣瀬神社の南側、大塚山古墳の東側に広がる微高地に広がる遺跡です。

平成6年度に実施した発掘調査により、縄文時代晩期の土器・石器の他、古墳時代中期以降の遺物がたくさん出土しました。縄文時代晩期に集落が営まれたと考えられ、その後の弥生時代の状況は今のところ不明ですが、古墳時代中期の大塚山古墳が築かれる頃には、集落が存在したようです。その後、廣瀬神社に伝わる絵図にはこの宮堂遺跡にあたる位置に聖徳太子建立の寺院として定林寺という大伽藍が描かれています。聖徳太子建立伝説は後世の付会として、飛鳥時代以降の土器もたくさん出土し、また、布目を持つ瓦も出土していることから、飛鳥時代以降に何らかの建物があったことは確実なようです。天武天皇4年（675）以降、毎年、廣瀬神社の国家的祭祀が行われ、天武天皇13年（684）には天武天皇が廣瀬に行幸しています。このような廣瀬神社の祭祀に関わる建物があった可能性があります。奈良時代にも引き続いて廣瀬神社との関わりのある建物があったと考えられます。このような建物が何れかの時点で神社に付随する寺院となっていたと考えられるでしょう。

まだ、建物の遺構が検出されていないので、今後の発掘調査が期待されます。



宮堂遺跡航空写真（南から）

長樂遺跡

宮堂遺跡の南側に広がる遺物散布地として知られています。平安時代以降、東大寺の荘園「小東庄」があった場所で、後に興福寺と結びつきが強くなります。この遺跡でも、近年の発掘調査により縄文時代後期とみられる土器や、古墳時代中期の埴輪、飛鳥時代以降の須恵器等が出土しています。現在の春日神社一帯には古墳が存在していたと考えられ、春日神社社殿も古墳の上に建てられている可能性もあります。春日神社の南側から石帯丸軀が出土しており、春日神社付近に奈良～平安時代の建物があったようです。

舟戸・西岡遺跡

河合町大輪田と王寺町舟戸にまたがる遺跡で、古くから耕作に伴って弥生土器や石器が出土することが知られていました。平成9年(1997)には舟戸山の山頂近くで大型の竪穴住居跡が検出され、高地性集落と考えられるようになりました。

平成13年度の発掘調査で、古墳時代以降の遺物が多数出土するとともに、掘立柱建物跡も検出されました。建物の時期は特定できませんでしたが、飛鳥～奈良時代の土器も多く見られ、弥生時代に重要な拠点であっただけではなく、古墳時代以降にも重要な地であり、大和川と密接にかかわるような建物があったことも考えられます。

この他に、馬見丘陵公園整備に伴う発掘調査では、飛鳥時代～平安時代の木棺墓等が検出され、馬見丘陵は古墳時代に続いて葬送の地であったことがわかります。また、奈良時代の道路状遺構がナガラ山古墳の南側で検出されています。

展示品一覧表

No.	品名	数量	遺跡名	備考
1	偏行唐草文軒平瓦	9	薬井瀧ノ北遺跡	6644C 型式3点、6644A 型式6点
2	複弁蓮華文軒丸瓦	10	薬井瀧ノ北遺跡	6272A 型式2点、6272B 型式8点
3	丸瓦	1	薬井瀧ノ北遺跡	
4	平瓦	1	薬井瀧ノ北遺跡	
5	熨斗瓦	1	薬井瀧ノ北遺跡	
6	面戸瓦	1	薬井瀧ノ北遺跡	
7	炭	1	薬井瀧ノ北遺跡	
8	壁体(焼土)	1	薬井瀧ノ北遺跡	
9	偏行唐草文軒平瓦	2	長林寺	

今回は、平成22年6月29日(火)～11月7日(日)の予定で、小墓高塚古墳・池部三ツ池古墳群・ナガラ山古墳等の河合町内の各遺跡から出土した須恵器の特集展示です。初めて展示する須恵器もあります。

尚、日程及び展示内容は変更になる場合があります。

次回もお楽しみに！(き)

※遺物写真の縮尺は統一しておりません。ご了承ください。



舟戸・西岡遺跡と大和川航空写真(南東から)

河合町の文化財に関するお問い合わせは

河合町教育委員会事務局

生涯学習課 文化財保存係 ^

〒636-0053

奈良県北葛城郡河合町池部2-13-1

Tel 0745-57-2271

Fax 0745-57-1165

E-mail syohgaigakusyu@town.kawai.lg.jp